

令和6年5月16日

5月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県の原木生産は年度切替で現場移動があり若干少な目であるが、県全体では順調に推移している。各地区共販所への入荷も順調。これから暫くは間伐中心の作業になるため、間伐材、小径木の入荷が多くなる。製材工場の原木引き取りは順調になったが、それ以上に入荷量が増えている。スギ 3.0m柱物は弱気配、4.0m中目は引き合い強く、高止まりで推移している。ヒノキ 3.0m、4.0mは保合から弱保合となった。

群馬県では原木集荷は順調だが、出材量が減少傾向にある。原木価格の上昇は一段落した。原木在庫のスギ材に虫害が見え始めた。製材工場の操業率は通常の80%程度。首都圏の製品市場からの受注は低調で地場の仕事も少ない。売れ行きは例年の7割程度で全ての製品で在庫が多くなっている。

2. 米材

3月の米国住宅着工数は前月比14.7%減の132万戸(年率換算)となった。北米製材品価格は低迷しており、過去4年間で最安値水準になっている。製材会社の採算は非常に厳しく、インターフォー社は年産の10%程度(約26万 m^3)を5~9月にかけて減産することを表明した。またカナダ準大手のティール・ジョーンズ社は経営破綻した。米国の港頭在庫は潤沢、カナダでも伐採期に入り、港頭在庫は平常に戻った。米マツIS級並の5月積み対日輸出価格は未確認情報ながら前月比横ばいの\$940/千SCRで決着した模様。ランダムレンジス紙発表の15種平均価格(5/7)は\$372/M、4月頭に比べ11.9%の下落となっている。

3月原木入荷は2月のずれ込みで160千 m^3 と増加。中国・四国が130千 m^3 で3月も非常に偏った入荷になった。1~3月累計では401千 m^3 (前年同期比17.5%減)。出荷も139千 m^3 と増加したが、1~3月累計では410千 m^3 (同16.0%減)。在庫は前月より増加し150千 m^3 、在庫率は1.41ヵ月。東京木材埠頭の4月製品入荷は15千 m^3 (前月比1.1%減)、出荷は13千 m^3 (同15.4%増)、在庫は42千 m^3 (同3.6%増)。

3. 欧州材

フィンランドの港湾ストは4/8に解決し、出荷は再開され正常に戻って

る。4～6 月積みは交渉中であるが、サプライヤー側はオファー価格の値上げ意向が強い。しかし日本側の抵抗が強く、なかなか値上げできない状況にある。間柱類は遅れていた分が入荷しており不足感はないが、荷動きは少々停滞気味である。集成柱・集成梁は入荷が安定し、価格帯も落ち着いている。需給バランスが取れており、直ぐに不足感が出る状況にはない。これからのプレカット工場の稼働次第といえる。先物コストは円安により今後さらに上がる見込みである。東京港の4月製品入荷は16千 m^3 で喜望峰回りで遅れていた分が入荷しており、漸く順調になった。しかし先行きはフィンランドの港湾ストや夏季休暇の影響で再び減少すると予想される。出荷は15千 m^3 と堅調である。在庫は30千 m^3 で適正な水準となっている。

4. 北洋材

産地の気温は平年並みで伐採期はほぼ終了。悪路により搬出は当面少ない。中国からの旺盛な引き合いは春節後に一段落した。ウズベキスタン等向けの低グレード品の引き合いは堅調で、一部で上級品への引き合いが出ている。アカマツ原板のオファー数量は極めて少ない。アカマツ完成品では\$600/ m^3 近い価格が当たり前になった。シッパーは赤字を背景に強気姿勢を崩していない。国内ではロシア材の独歩高に警戒感はあるが、10万円台半ばの価格水準が定着している。アカマツは代替材への転換が意外なほど起きていない。国内北洋材工場では原板在庫が極めて少なく、現地挽き完成品の再仕分けが恒常化している。4月の製品入荷（東京+川崎）は13千 m^3 と多少増加したが、産地の生産意欲の低下、コンテナ出荷不調で入荷が増えない状況に変わりはない。出荷は実需低調のため13千 m^3 と低位安定。在庫は21千 m^3 で未だボトムに達していない。

5. 合板

合板用原木の入荷はGWの長期休暇で、ある程度の制限がかけられた。原木自体の不足感は見られない。合板メーカーの販売価格は4月の新規受注価格よりも一段値上げとなり、各メーカーとも慎重に表明している。メーカーが希望する価格にはもう少し時間を要しそうだ。国産合板は値下げも漸く止まり値上げの受注が始まる。輸入合板は日本国内の先行き不透明感から現地への纏まったオーダーは乏しい。3月の国内合板生産量は19.7万 m^3 、うち針葉樹構造用合板の生産量は17.4万 m^3 、出荷量は18.3万 m^3 で在庫量は14.4万 m^3 となった。3月の合板輸入量は16.5万 m^3 で前月比92.9%、前年同月比104.9%。今後入荷量も極端に増える見込みはなく15万～17万 m^3 と予想される。現地合

板工場では日本からオーダーが減少しており、稼働も低調である。

6. 構造用集成材（国内産）

4月のラミナ入港量は通常の6割程度と少なく、在庫量も減少傾向。スエズ運河の使用取り止めで、入港が2~3ヵ月遅れており、ラミナの欠品が懸念される。またフィンランドの港湾ストの影響で供給が不安定になると予想される。現在入港の第4・四半期契約のラミナ価格は€260~270/m³程度で輸入コストは上昇傾向にある。国内集成材メーカーの受注は微減、販売は前年同月比90~95%、在庫は適正水準である。3月の構造用集成材の輸入量は小断面19,903 m³（前年同月比11.4%増）、中断面20,633 m³（同25.6%増）となった。

7. 木材チップ（東海）

原木は製紙・バイオマス発電用とも小径材(C材)の引き合いが強く、慢性的に不足感が継続。燃料材は解体物件の減少、工場残材の発生減、集荷競合の激化に伴い、減少傾向は変わらず。製紙用チップは用紙・板紙の消費が振るわず、一部大手製紙会社では減産・操短(80~90%)を継続中。今後、夏場にかけて大型定期修理が連続するので消費は減少の見込み。国内チップ工場では国産材チップ原木の集荷増の基調は変わらない。製紙とバイオマスのバランスと定期修理の状況を見ながらの生産となっている。

8. 市売問屋

構造材、造作材とも荷動きが良くない。外材では値上がりする材と値下がりする材がはっきりと分かれている。国産材は保合と見られる。アカマツ製品の値上がりによりLVLやスギへの変更も見受けられるようになったが、まだ材木店の仕事量が少ないので落ち着いている。

9. 小売

首都圏では戸建住宅の実需不足が深刻である。先行き需要が弱いと見る業者が多く、当用買いが主流になっている。プレカット工場の稼働率は前月と同じく7割~8割と低調である。町場工務店ではマンションリフォームに堅調な需要が見られる。構造材はスギ・ヒノキとも弱含みが続いている。遠隔地からの調達では配送料の値上げ等でコスト増となっているが、価格に転嫁できない状況。WW集成柱は5月以降値上げとなる見込み、RW集成平角も段階的にコスト高を価格に転嫁してくる模様。造作材では加工板や枠材が戸建住宅や店舗向けに比較的引き合いがある。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和6年5月16日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	↗	→	↗
北洋材	製材品	↘	→	↘

注)北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
↘	→	→	→

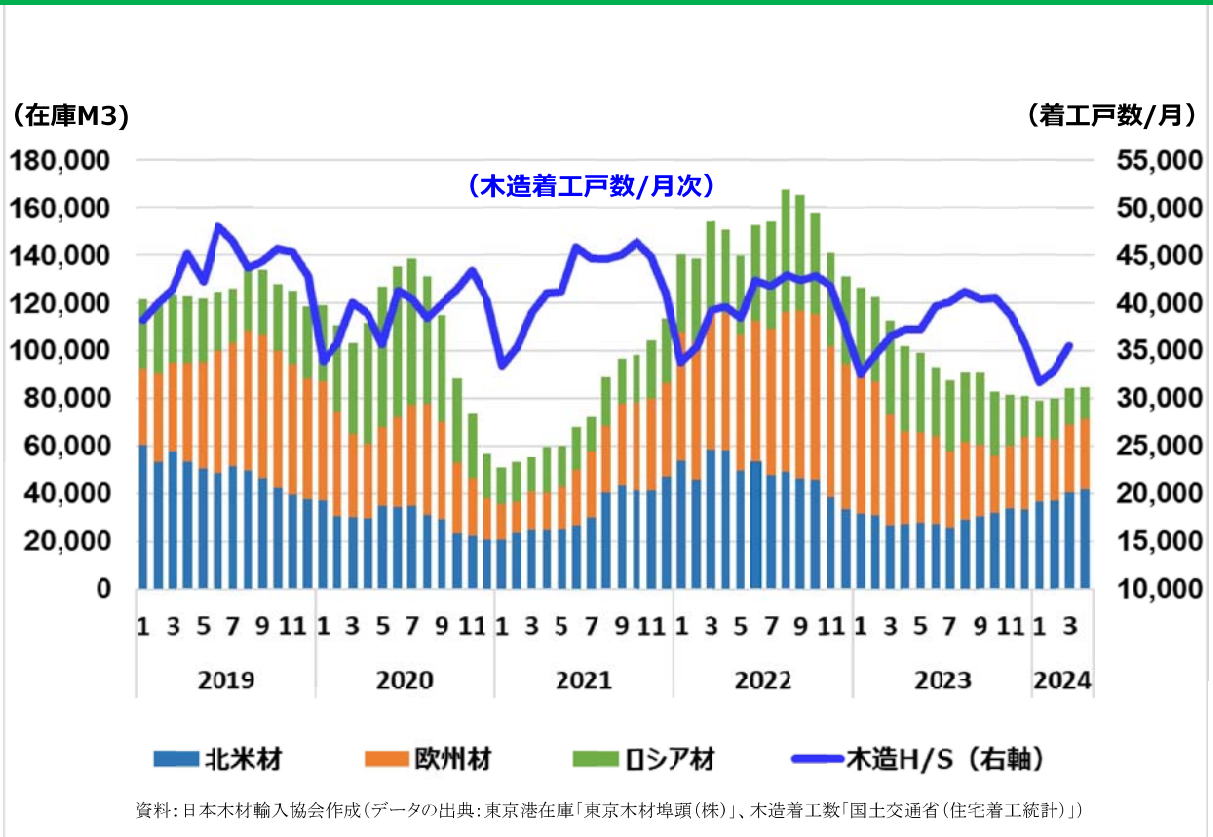
3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m) 2等	→
			スギ中丸太(3.65m) 2等	→
			ヒノキ柱材(3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太(4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 10.5×10.5×4m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ コースト	↗
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・間屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
欧州材	製材品	東京・間屋店頭 渡し価格	米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13'	→
			米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→
北洋材	製材品	北陸・オントラ 京浜・オントラ	ホワイトウッド'ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
			〃 間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	↗
構造用 集成材	国内産	東京・間屋店頭 渡し価格	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	↗
			アカマツ(KD) 30×40上級	↗
	欧州産		アカマツ(KD) 24×28 積木	→
			〃	〃
合板	国産	東京・間屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド'集成柱 JAS 5プライ	↗
			レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	↗
			スギ 無化粧 JAS 5プライ	↗
			ホワイトウッド集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985	↗
			レッドウッド集成梁 JAS105×150~360×3.985	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	→
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	→
			型枠 12.0mm厚 3×6	→
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗

注)令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加

参考図表 1

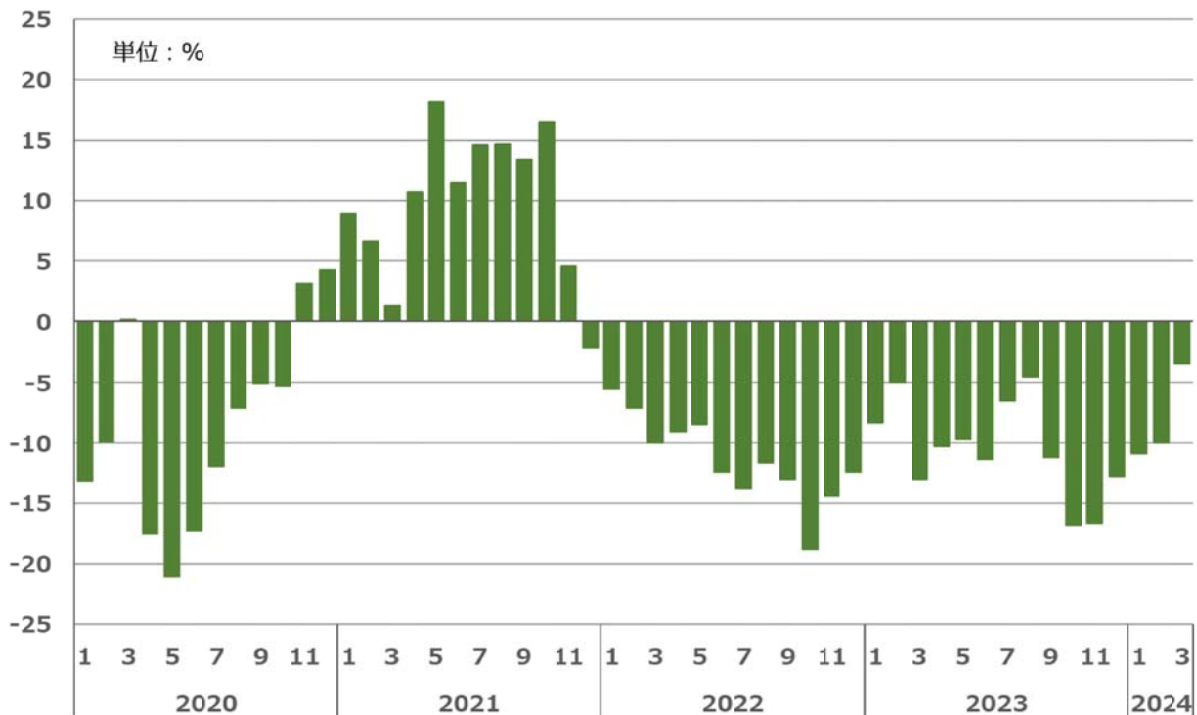
「東京港製材品在庫」と「木造着工数」の推移 2019～24年



参考図表 2

木造持家住宅着工戸数の対前年比の推移

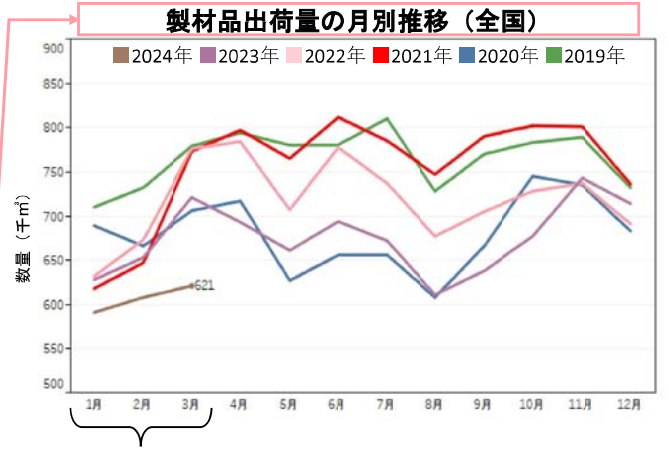
住宅着工戸数のうち、国産材の使用比率が比較的高い「木造持家」着工戸数についての、対前年比率。



参考図表 3

工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向 製材（全国）

- 2024年1～3月の原木の入荷量は3,736千³m（2019年比85%）。
- 同様に製材品の出荷量は1,820千³m（2019年比82%）。

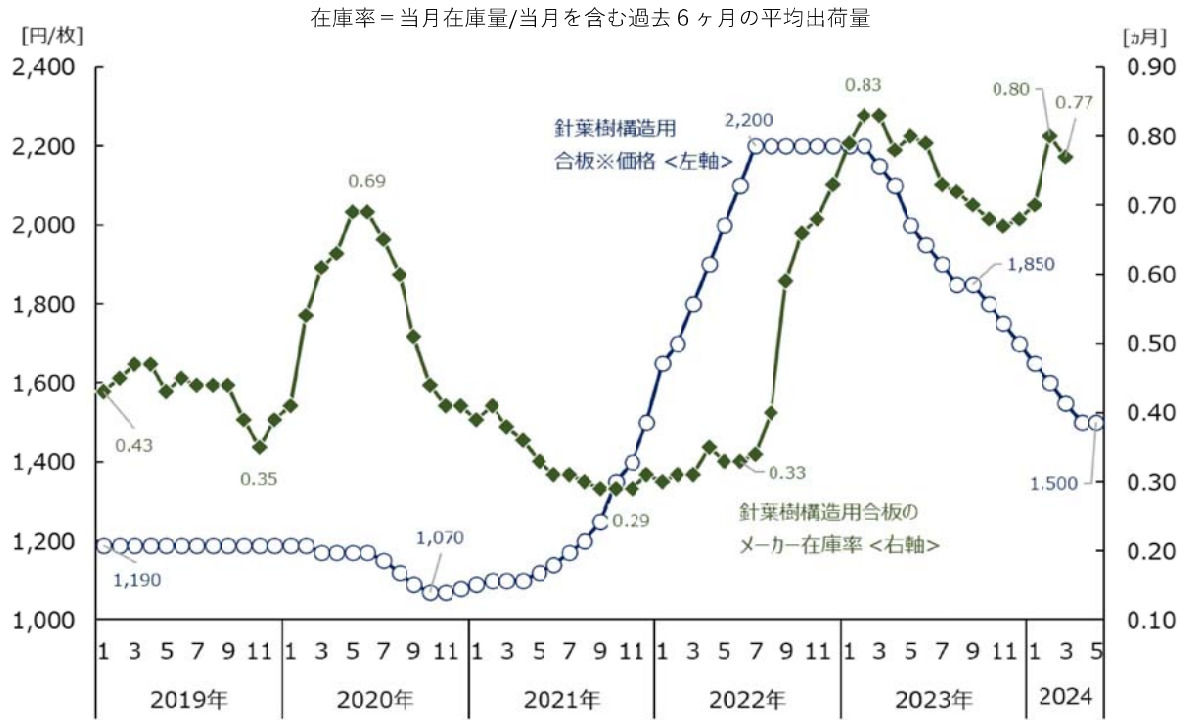


	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
1～3月原木入荷量合計(千 ³ m)	4,389	4,141	3,840	4,185	4,163	3,736
2019年との比較*	-	94%	87%	95%	95%	85%
1～3月製材品出荷量合計(千 ³ m)	2,221	2,061	2,038	2,081	2,002	1,820
2019年との比較*	-	93%	92%	94%	90%	82%

*コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

参考図表 4

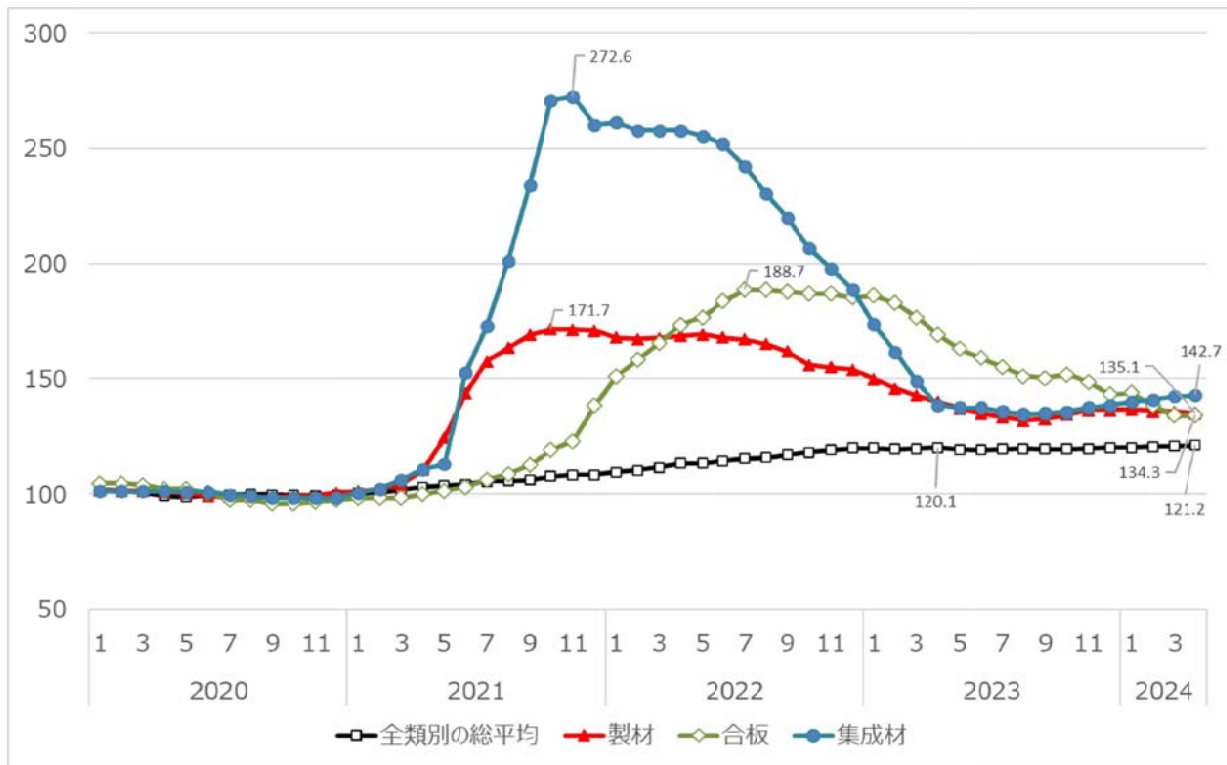
針葉樹構造用合板価格と合板メーカー在庫率の推移



※12.0mm×91cm×182cm、1類

資料：農林水産省「合板統計」、日本木材総合情報センター「市況検討委員会資料」

国内企業物価指数の推移（2000年平均 = 100）

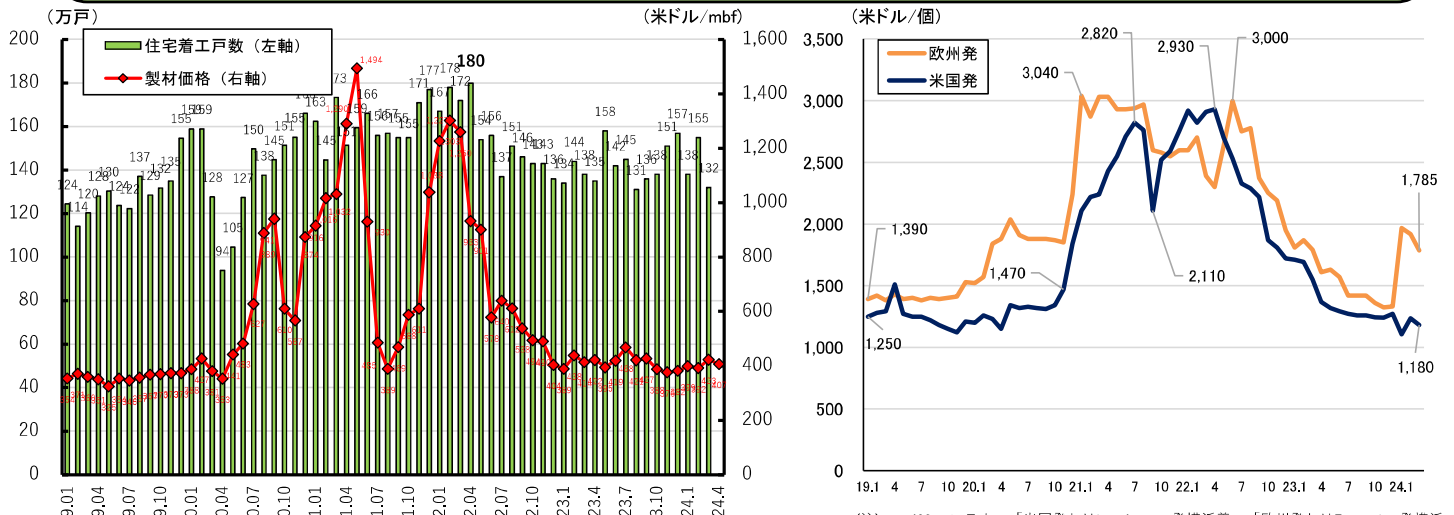


資料：日本銀行「企業物価指数」

米国における木材価格の動向等

資料：木材輸入の状況について (林野庁木材貿易対策室)

- 米国の住宅着工戸数（戸建て計）は、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年4月に急落。その後、コロナ禍による在宅需要増加と住宅ローン金利低下により、増加傾向が続き、2022年4月には約180万戸（年率換算）を記録。2022年5月から住宅ローン金利の急騰により再度下落し、130～150万台で推移。2024年3月は前月比▲15%減の約132万戸となった。
- 北米の木材価格は、2020年夏から急上昇。同秋に一旦下がったものの同冬から再び急上昇し、2021年5月には1,494ドル/mbfを記録。以後急落したが、同年9月以降再上昇し、2022年2月には1,303ドル/mbfを記録。その後再度下落し、概ね400ドル/mbf前後で推移。2024年4月には407ドル/mbf（前月比▲4%減）となった。
- 日本向けコンテナ運賃は、欧州発、米国発ともに一時期高騰していたが、2022年7月以降は下落傾向が続き、2023年末時点で2019年頃の水準に戻った。しかしながら、2024年1月には、紅海でのフーシ派攻撃によるサプライチェーンの混乱の影響で欧州発コンテナ運賃が高騰した。



資料：（住宅着工戸数）米商務省「住宅着工統計」（季節調整済み、年率換算、戸建て計）
（製材価格）Random Lengths「Framing Lumber Composite Price」（月末価格、2022年6月以降は月中価格）

米国における住宅着工戸数と製材価格の推移

（注）40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横浜着、「欧州発」はRotterdam発横浜（出典）Drewry「Container Freight Rate Insight」
資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」

日本向けコンテナ運賃の推移